

今年の業況感 後半に回復へ

卯年の株式相場格言は「跳ねる」。県内の今年の景気はどうか。

当社が昨年十一月に県内企業二百十社に実施した調査では、自社の収益を中心とした業況感は、年央にかけて鈍化するものの、年後半に持ち直すとみる企業が多いことが分かった。

業況が「良い」とみる企業の割合から「悪い」の割合を引いた業況判断DIは、二〇二二年十～十二月の一八・六から二三年一～三月は一三・八、四～六月は八・一に低下するが、七～九月は一・九と上向く。

減速の主な要因は、原材料や燃料価格などの高騰の影響。製造業では部材などの供給不足への懸念も加わる。ただ、製造業で計画通りに仕入れができない「仕入難」を見込む企業は、年前半の42.1%から年後半には36.8%に減り、影響は緩和に向かうとみている。

非製造業では物価高の影響を懸念しつつも、ウィズコロナの生活様式が定着し外出関連需要などが上向く中で、個人消費の回復が続くことへの期待感から総じて高いプラスを維持する見通しとなった。需要回復に伴い人手不足感は強まり、七割強の企業が増員の意向を示した。

世界経済の先行き不透明感は強いが、景気の気は気持ちの気。翌辰年の相場格言「天井」に向けて、ウサギのように跳躍する展開を期待したい。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2023年1月12日